

御食国若狭おばま  
北陸新幹線敦賀開業アクションプラン  
個別取組み改訂版 2019-2024



令和5年1月  
小浜市



目次

第1章 全体概要	…1
2 計画期間	…2
6 計画目標	
第2章 項目別アクションプラン	…3
1 アクションプランの方向性	…4
2 取組み系統図	…5
3 個別取組み	…6

# 第1章

## 全体概要

- 1 策定の背景と目的
- 2 計画期間
- 3 計画の位置づけ
- 4 エリア設定
- 5 開業時の見通し
- 6 計画目標
- 7 計画の見直し
- 8 プラン後の取組み



## 2 計画期間

本アクションプランの計画期間は、2019年度から2024年度までの6年間とします。

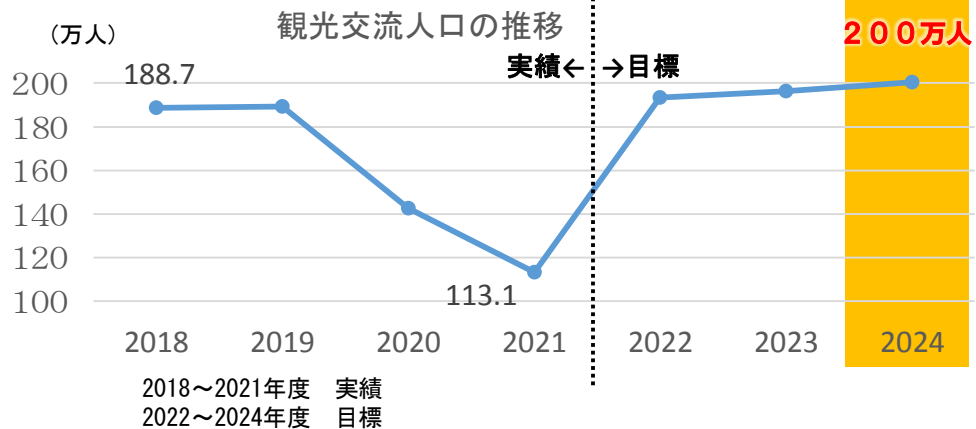
## 6 計画目標

本アクションプランについて、計画期間終了となる2024年度に向け、甲信越エリアからの流入やインバウンド増加などの施策効果を踏まえ、次のとおり目標を定めます。

### 【数値目標】

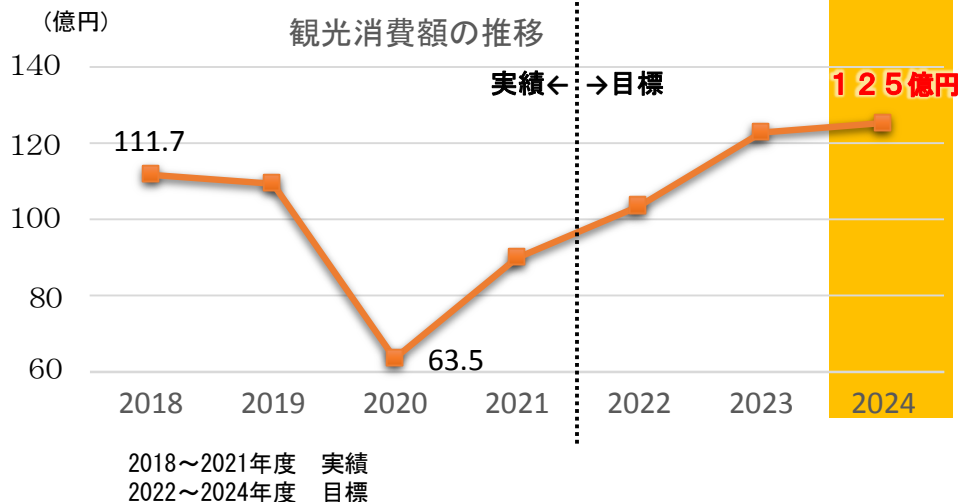
#### ①2024年度の観光交流人口 200万人以上を達成

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
観光交流人口 (万人)	188.7	189.3	142.6	113.1	193.4	196.4	200.4



#### ②2024年度の観光消費額 125億円以上を達成

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
観光消費額 (億円)	111.7	109.4	63.5	89.9	113.5	122.8	125.2



# 第2章

## 項目別

## アクションプラン

- 1 アクションプランの方向性
- 2 取組み系統図
- 3 個別取組み



## 1 アクションプランの方向性

本アクションプランは、北陸新幹線の敦賀開業による交流人口の拡大を図るため、「観光の目的地化」ならびに「交通利便性の向上」を目標として、魅力の向上、情報発信、受入体制整備、基盤整備ならびに交通利便性の向上を基本方針として取組めます。

また、それぞれの基本方針に基づきアクション（取組み）を定め、そのアクションに基づいた具体的な取組み（事業）を実施します。

本市は、これまで「御食国若狭と鯖街道」「北前船寄港地・船主集落」の2つの日本遺産に認定されており、鯖街道のストーリーを軸として、歴史文化の交流のほか、鯖の養殖の事業化や食関連人材の交流など、京都をはじめとした関係都市との連携を深めながら、広域的かつ多角的な取組みを進めてきました。

また、本市の特色である「食」や「食文化」についても古くから「御食国（みけつくに）」として京都との結びつきが強いことから、「日本遺産」および「食」といった強みを生かすためにも一体的な取組みが重要と考えています。

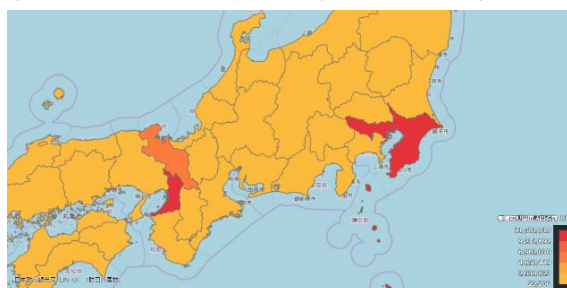
併せて、本市を訪れ、本市ならではの本物の体験等を通じて満足感を向上させるため、市民自身のウェルビーイングを向上させる取組みも重要と考えています。

一方で、JNTO（日本政府観光局）の統計では、2016年のインバウンド（訪日外国人観光客）数は2,400万人以上、延べ宿泊者数7,000万人以上、観光消費額3兆7千億円以上にのぼるなど年々拡大しています。

また、インバウンドの来訪は、本市に近い関西圏と今後新たにつながる首都圏に集中しており、特に本市と交流の深い京都には毎年600万人以上のインバウンドが訪れているのが現状となっています。

これまで取組んできた、本市の強みである「食」や「食文化」ならびに「日本遺産」など、ストーリー性の高い文化・観光スポットや体験型のコンテンツは、インバウンドの興味度が非常に高いことから、農林水産省に選定された「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」の活用も含め、さらなる取組みの深化により、国内観光客はもとよりインバウンドの誘客拡大につなげることは十分可能と考えています。

こうしたことから、本アクションプランの取組み成果である『観光交流人口ならびに観光消費額の拡大』の実現に向け、文化・観光コンテンツのさらなる研ぎあげ、効果的な情報の発信、観光客の受入体制の整備ならびに観光関連施設や街並みの整備など、多様化する観光ニーズへの対応を図るとともに、敦賀～小浜間のアクセス向上等、交通利便性の向上に向けた取組みを含め総合的に取り組んでいきます。



赤色の区域にインバウンドが集中 —RESAS 2016年外国人訪問分析より—



## 2 取組み系統図

本アクションプランは、次のイメージのとおり、「北陸新幹線 敦賀開業効果の享受」を図るため、「観光の目的地化」と「交通利便性の向上」の大きな方向性を定め、それらの達成に向けた取組み項目を設定して取組みを進めます。

### 【取組みイメージ】

成果 ← 目標 ←

基本方針

→アクション(取組み)

北陸新幹線 敦賀開業効果の享受(交流人口拡大)

1. 観光の目的地化

#### ① 魅力の向上 (魅せる)

日本遺産や食を代表とする地域資源の研ぎあげ、新たな魅力の創出に取組む

- 1) 食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成等の食のまちづくりの新たな展開
- 2) 日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研ぎあげ
- 3) 地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出
- 4) 買いたくなるお土産物・特産品の開発や研ぎあげと販売拠点の充実

#### ② 情報発信 (呼びこむ)

新たなターゲットに向けて、日本遺産や食をはじめとする地域資源ならびに観光資源の魅力を発信し、呼び込む

- 1) 新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信
- 2) 体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援

#### ③ 受入体制整備 (もてなす)

観光案内やインバウンド対応など、訪れた観光客の利便性向上とおもてなし力の向上に取組む

- 1) 観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化
- 2) W i - F i 整備やキャッシュレス化等の観光客の利便性の向上
- 3) 観光事業者や市民の「おもてなし意識」の醸成・向上

#### ④ 基盤整備 (しつらえる)

観光案内所や街路整備など、観光のサポートや周遊観光に向けた基盤整備に取組む

- 1) インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上
- 2) 回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用

2. 交通利便性の向上

#### ① 交通利便性の向上 (来やすい、まわりやすい)

二次交通の強化やJRの機能強化など、交通利便性の強化に向けた取組み

- 1) 高速バスの利用拡大と2次交通の充実による小浜市へのアクセス向上
- 2) 2次交通の機能強化等による市内観光の交通利便性の向上
- 3) JR小浜線の利便性の向上と機能強化、強靱化の検討・実施  
※嶺南地域公共交通網形成計画と連携





## 3 個別取組み

## 1. 観光の目的地化

## ① 魅力の向上(魅せる)

アクション 1)	<b>食のレベルアップやブランド化、食を軸とした人材育成など、食のまちづくりの新たな展開</b>					
取組み内容	① 食に関わる人材の育成・研修制度の構築による移住定住の促進 ② 市内の料理人と一次産業の生産者等との協働を通じた食のレベルアップと地域内経済循環の仕組みづくり ③ モデルとなる漁家レストランなど食材を生かした料理の提供・人材育成環境の整備					
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、文化交流課、農政課、里山里海課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> 食関連産業等の担い手育成者数(人)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	5 (5)	5 (10)	5 (15)	5 (20)	5 (25)	5 (30)
実績	4 (4)	4 (8)	7 (15)			
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食関連産業等の担い手の育成のため、地域おこし協力隊制度を活用した「御食国 食の学校」の立ち上げ、運営(食のまちづくり課)</li> <li>・市内飲食店等の食関連人材を対象としたセミナーの開催(商工観光課)</li> <li>・食事処「御食国若狭おばま濱の四季」での地元メニューの展開(商工観光課)</li> <li>・道の駅若狭おばまに地産地消レストラン「おくとさん」を整備し、地元メニューを展開(商工観光課)</li> <li>・商店街など特定エリア、市街地エリア等への創業支援(商工観光課)</li> <li>・歴史的背景からくる伝統食品のブランド化や購買意欲増強に向けた食文化カードを作成(文化交流課)</li> <li>・有機農業の実証と生産者を増やすため、外部講師による研修会を開催(農政課)</li> <li>・生産者の見える化を図るため、生産者カードを企画・制作(農政課)</li> <li>・内外海地区活性化計画に基づく「海のオーベルジュ事業」の開始(里山里海課)</li> <li>・「海のオーベルジュ志積」での料理人とマネージャーの人材育成(里山里海課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内飲食店や農林水産業者等と連携した「小浜でしか食べられない」食の基準策定、地元産品を提供する飲食店の拡大、ターゲットに合ったメニューの開発(食・地域創生戦略室)</li> <li>・飲食店など関係事業者が連携した旬の食材の情報発信(解禁日の設定等)(商工観光課)</li> <li>・有機農産物生産者のすそ野を広げるため、外部講師による実証を含む研修会を継続して開催(農政課)</li> </ul>					





アクション 2)	日本遺産のストーリーを生かした文化・観光スポット・コンテンツの研きあげ					
取組み内容	① 日本遺産に紐づけられる地域資源やストーリーを生かした、魅力ある文化・観光スポット・コンテンツの研きあげ ② ストーリー性の高いイベント開催を通じた文化・観光コンテンツの充実化 ③ 神社仏閣など日本遺産の構成遺産を生かした観光コンテンツの創出					
主な関係課	食のまちづくり課、文化交流課、里山里海課、生涯学習スポーツ課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> 市内文化財を活用した体験プラン・ツアー商品数(件)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	6 (24)	6 (30)	6 (36)	6 (42)	6 (48)	6 (54)
実績	6 (24)	6 (30)	8 (38)			
これまでの 取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「御食国・和食の祭典」の開催(食のまちづくり課)</li> <li>・「港町若狭小浜日本遺産フェスティバル」の開催(食のまちづくり課)</li> <li>・おばま観光局と連携し、日本遺産ストーリーを伝える外国人向き観光ガイドブックJOURNEY TO OBAMAを作成(文化交流課)</li> <li>・鯖街道まちづくり連携協議会と共同で小浜、若狭町、高島市を巡るドライブマップ(ソウルフルロード)を作製(文化交流課)</li> <li>・護松園(旧古河屋別邸)のカフェや物販販売施設等の整備を支援(文化交流課)</li> <li>・日本遺産構成文化財を巡る日本遺産サイクリングマップの作製(文化交流課)</li> <li>・立命館大学食マネジメント学部と連携した若狭小浜小鯛さき漬けの調査(文化交流課)</li> <li>・福井新聞社の福井城巡りプロジェクト、小浜市の歴史と文化を守る市民の会と連携し、お城印を販売(文化交流課)</li> <li>・文化財建造物を特別な空間として利用した事例として、明通寺にてザッハトルテによる演奏会を実施(文化交流課)</li> <li>・おばま観光局と連携し鯖街道「針畑越え」を巡る旅行商品を造成(文化交流課)</li> <li>・鯖街道ウォーキングの観光商品化に向けた環境整備の調査検討(文化交流課)</li> <li>・歴史資源活用センターの実施、歴史文化財を活用した商品開発を支援(文化交流課)</li> <li>・後瀬山城築城500周年を記念する講演会などの関連行事を開催(文化交流課)</li> <li>・小浜市の歴史と文化を守る市民の会などの有志と協働で、トレッキングルートである後瀬山城跡に看板を設置(文化交流課)</li> <li>・「小浜よっぱらいサバ」のブランド化、養殖事業の民間移行による販路拡大(里山里海課)</li> <li>・「旭座上方落語会」と「小浜の食」のコラボバスツアーを実施(生涯学習スポーツ課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国宝や重要文化財を中心としたハヶ寺巡りの活用(商工観光課・文化交流課)</li> <li>・史跡後瀬山城跡(守護館跡)の整備に向けた取組み(文化交流課)</li> <li>・日本遺産を体感できるオーディオガイド等コンテンツの作成(文化交流課)</li> <li>・若狭小浜小鯛のさき漬けの国無形登録文化財への登録に向けた文化庁への働きかけ(文化交流課)</li> <li>・京都の料理人等と連携した「小浜よっぱらいサバ」の販路拡大(商工観光課・里山里海課)</li> <li>・「旭座上方落語会」と「ちりとてちん杯全国女性落語大会」の開催を通じた旭座の知名度アップと小浜市の情報発信・PR実施(生涯学習スポーツ課)</li> </ul>					



アクション 3)	地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出					
取組み内容	①教育旅行の横展開、新たな体験型観光コンテンツの開発促進 ②まちの駅や三丁町など、地域特性やストーリーを生かした観光コンテンツの掘り起こしならびに研ぎあげ ③おばま観光局(日本版DMO)との連携による地域資源を生かした周遊・滞在型観光の開発 ④嶺南市町および近隣の府県との連携など、広域連携による観光エリアの創出					
主な関係課	未来創造課、食のまちづくり課、商工観光課、文化交流課、農政課、都市整備課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> 観光交流人口(万人)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	1.8 (186.6)	2.2 (188.8)	2.3 (191.1)	2.3 (193.4)	3.0 (196.4)	4.0 (200.4)
実績	4.5 (189.3)	▲46.7 (142.6)	▲29.5 (113.1)			



アクション 3)	地域資源の連携による観光コンテンツの充実と「小浜らしい周遊・滞在型観光」の創出
<p>これまでの 取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺南6市町等で構成する若狭路アウトドアアクティビティ推進協議会を設立し、大手アウトドアメーカーモンベルのプロモーションエリアに「フレンドエリア若狭路」を登録(未来創造課)</li> <li>・探究学習をはじめとした教育旅行の誘致(食文化館、ブルーパーク阿納等)(食のまちづくり課・商工観光課)</li> <li>・川崎地区を巡るツアーやスタンプラリーの開催(食のまちづくり課)</li> <li>・御食国若狭おばま観光まちづくり戦略の策定(商工観光課)</li> <li>・民間連携による賑わいの創出(NEST INN OBAMA・活性化イベント)(商工観光課)</li> <li>・まちの駅やエンゼルラインでの事業者連携イベント開催支援(商工観光課)</li> <li>・おばま観光局と連携した国内外向けの体験プログラムの開発(商工観光課)</li> <li>・まちの駅を拠点に4駅や市内の事業者と連携した周遊スタンプラリーの実施(聞けばなるほどまち歩きスタンプラリー)(商工観光課)</li> <li>・まちの駅の新たな賑わいの創出(広場の整備、備品の整備・イベント開催)(商工観光課)</li> <li>・小浜町家ステイと連携した宿泊体験プログラムの造成(商工観光課)</li> <li>・若狭湾サイクリングルート of 整備(商工観光課)</li> <li>・商店街など特定エリアへの創業支援(商工観光課)【再掲】</li> <li>・鯖街道まちづくり連携協議会と共同で小浜、若狭町、高島市を巡るドライブマップ(ソウルフルロード)を作製(文化交流課)【再掲】</li> <li>・日本遺産構成文化財を巡る日本遺産サイクリングマップの作製(文化交流課)【再掲】</li> <li>・福井新聞社の福井城巡りプロジェクト、小浜市の歴史と文化を守る市民の会と連携し、お城印を販売(文化交流課)【再掲】</li> <li>・文化財建造物を特別な空間として利用した事例として、明通寺にてザットルテによる演奏会を実施(文化交流課)【再掲】</li> <li>・おばま観光局と連携し鯖街道「針畑越え」を巡る旅行商品を造成(文化交流課)【再掲】</li> <li>・鯖街道ウォーキングの観光商品化に向けた環境整備の調査検討(文化交流課)【再掲】</li> <li>・歴史資源活用セミナーの実施、歴史文化財を活用した商品開発へ支援(文化交流課)【再掲】</li> <li>・後瀬山城築城500周年を記念する講演会などの関連行事を開催(文化交流課)【再掲】</li> <li>・小浜市の歴史と文化を守る市民の会などの有志と協働で、トレッキングルートである後瀬山城跡に看板を設置(文化交流課)【再掲】</li> </ul>
<p>今後の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレッキング、サイクリング、カヤック等のアウトドア・アクティビティを楽しめるルート設定等によるジャパンエコトラック登録(未来創造課)</li> <li>・蘇洞門めぐりなど川崎地区の活性化に向けた体験やイベント等の開催(食のまちづくり課・商工観光課)</li> <li>・北陸デスティネーションキャンペーン連携イベントの開催(商工観光課)</li> <li>・まちの駅やエンゼルライン、小浜公園、三丁町など公共空間を活用した賑わい創出を支援(商工観光課)</li> <li>・「道の駅若狭おばま」、「インフォメーションセンター」を拠点とした観光案内の充実を図り、4駅への周遊を促す(商工観光課・食のまちづくり課)</li> <li>・若狭湾サイクリングルートの走行環境整備、スタッフに対する研修やイベント・ワークショップの開催、プロモーション活動等の実施(商工観光課・都市整備課)</li> <li>・小浜市総合卸売市場の市民・観光客への開放(フードロスコーナー設置、飲食店の誘致、キッチンカー販売や生産者による軽トラック市等の開催)(農政課)</li> <li>・「つなぐ棚田遺産」に選ばれた田鳥地区の棚田「かんにゃ」のPR(農政課)</li> </ul>



アクション 4)	<b>買いたくなるお土産物・特産品の開発や研ぎあげと販売拠点の充実</b>					
取組み内容	①既存のお土産物のパッケージやデザインのブラッシュアップに向けた研修ならびに刷新支援 ②新たな特産品やお土産物の開発に向けた支援 ③空き店舗等を活用した特産品等の販売拠点の充実と販路拡大					
主な関係課	商工観光課、文化交流課、農政課、里山里海課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> ブラッシュアップしたお土産商品数(個)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
実績	0 (0)	3 (3)	3 (6)	3 (9)	3 (12)	3 (15)
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事処「御食国若狭おばま濱の四季」での地元メニューの展開(商工観光課)<b>【再掲】</b></li> <li>・商店街など特定エリア、市街地エリア等への創業促進(商工観光課)<b>【再掲】</b></li> <li>・キッチンカー創業者への支援(商工観光課)</li> <li>・関係機関と連携した「空き店舗」「空き家」の情報提供、支援制度の紹介、経営資金調達アドバイス、経営計画の診断(商工観光課)</li> <li>・お土産パッケージデザインに関するセミナー・個別相談会・試作品製作費支援(商工観光課)</li> <li>・おばま観光局の自社商品(土産物等)を開発(商工観光課)</li> <li>・立命館大学食マネジメント学部と連携した若狭小浜小鯛ささ漬の調査(文化交流課)<b>【再掲】</b></li> <li>・歴史的背景からくる伝統食品のブランド化や購買意欲増強に向けた食文化カードを作成(文化交流課)<b>【再掲】</b></li> <li>・小浜市の歴史・文化的ストーリーに基づいたお土産等の商品開発に関するセミナー開催、採択された商品開発費の支援(文化交流課)</li> <li>・差別化を図るため、農産物のパッケージデザインや見せ方の検討会を実施(農政課)</li> <li>・生産者の見える化を図るため、生産者カードを企画・制作(農政課)<b>【再掲】</b></li> <li>・ブランド養殖魚四種(サバ、まはた、サーモン、ひらめ)のパッケージ化(里山里海課)</li> <li>・ブランド養殖魚を活用した加工品の開発(里山里海課)</li> <li>・若狭小浜小鯛ささ漬の新パッケージデザインを開発(里山里海課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかの賑わい創出を目指した市街地エリアやキッチンカー等への創業支援(商工観光課)</li> <li>・買いたくなるお土産開発と情報発信にかかる一体的支援(商工観光課)</li> <li>・「道の駅若狭おばま」における地元食材の情報発信(商工観光課)</li> <li>・まちの駅のテナント(土産物店や飲食店等)について検討(商工観光課)</li> <li>・ブランド養殖魚を活用した土産物の展開(里山里海課)</li> <li>・若狭小浜小鯛ささ漬の土産物としての普及拡大(里山里海課)</li> <li>・海のオーベルジュ志積での地元メニューの開発(里山里海課)</li> </ul>					





## 1. 観光の目的地化

## ②情報発信(呼びこむ)

アクション 1)	新たな地域・インバウンド等、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信					
取組み内容	①新たな地域やターゲットに向けた戦略的な情報発信 ②既存の観光情報等の整理・一元化 ③インバウンドに向けた情報発信の充実					
主な関係課	未来創造課、食のまちづくり課、商工観光課、文化交流課、里山里海課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 観光協会公式SNSにおけるファン数(リーチ数)の拡大率(%)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	5 (5)	5 (10)	5 (15)	5 (20)	5 (25)	5 (30)
実績	11.8 (11.8)	188.6 (200.4)	78.3 (278.7)			
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手アウトドアメーカーモンベルのプロモーションエリアとして「フレンドエリア若狭路」を登録し、情報発信(未来創造課)【再掲】</li> <li>・京都食材連携による情報発信(商工観光課)</li> <li>・国内外によるWEBを活用した情報発信(商工観光課)</li> <li>・ターミナルビジョンでの動画放映(商工観光課)</li> <li>・おばま観光局と連携し、日本遺産ストーリーを伝える外国人向き観光ガイドブックJOURNEY TO OBAMAを作成(文化交流課)【再掲】</li> <li>・鯖街道サイクリングマップ英語版の作成(文化交流課)</li> <li>・鯖街道「針畑越え」を巡るサイクルツアー造成に係る映像作成、情報発信(文化交流課)</li> <li>・日本遺産「鯖街道」のホームページの英語説明文を観光庁基準に準じ改訂(文化交流課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンベルオンラインイベントへの出展、モンベルストアへの広域観光パンフレット設置(未来創造課)</li> <li>・トレッキング、サイクリング、カヤック等のアウトドア・アクティビティを楽しめるルート設定等によるジャパンエコトラック登録(未来創造課)【再掲】</li> <li>・SAVOR JAPAN認定を活かした情報発信(食のまちづくり課)</li> <li>・海の駅ツアーの商品化に向けた取組み(食のまちづくり課)</li> <li>・市内事業者を対象とした情報発信力向上に向けた魅せ方セミナーの開催、SNS等で使用する画像や動画などの宣材作成への支援(商工観光課)</li> <li>・北陸デスティネーションキャンペーンと連携した情報発信(商工観光課)</li> <li>・国内外向けの動画サイトや検索サイト等へのWEB広告(商工観光課)</li> <li>・首都圏、北信越、関西方面への情報発信の強化(商工観光課)</li> <li>・若狭湾観光連盟や若狭おばま観光協会と連携した首都圏等での出向宣伝、商談会への参加(商工観光課)</li> <li>・NEST INN OBAMA WEBサイトでの地域の人や飲食店、産業等の情報発信(商工観光課)</li> <li>・各種メディア、エージェントへの営業活動やプレスリリースサービスを用いた情報発信(商工観光課)</li> <li>・「福井県観光開発プロジェクト」と連携し、大手旅行会社等への旅行商品開発の働き掛け(商工観光課)</li> <li>・小浜独自の観光素材集を作成(商工観光課)</li> <li>・杉田玄白や山川登美子をはじめとした歴史上の人物を活かした情報発信(商工観光課・文化交流課)</li> <li>・松永六感、海のオーラルジュ志積、阿納の民宿再生等、新たな宿泊スタイルの提供および既存民宿のリニューアル、地元食材を活用したメニュー等の情報発信(商工観光課・里山里海課)</li> </ul>					



アクション 2)	体験型観光等、地域資源を活用したモニターツアーの実施による「小浜らしい」旅行商品の開発支援					
取組み内容	① SNSのインフルエンサーや旅行エージェント等を対象としたモニターツアーの実施 ② モニターツアーの知見を生かした「小浜らしい」旅行商品の開発支援					
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、文化交流課、生涯学習スポーツ課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 ツアーの年間開催件数 (件)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	5 (5)	5 (10)	5 (15)	5 (20)	5 (25)	5 (30)
実績	14 (14)	5 (19)	4 (23)			
これまでの取組み	・小浜町家ステイと連携した宿泊体験プログラムの造成(商工観光課)【再掲】 ・鯖街道「針畑越え」を巡るサイクリングモニターツアー実施(文化交流課) ・「旭座上方落語会」と「小浜の食」のコラボバスツアーを実施(生涯学習スポーツ課)【再掲】					
今後の取組み	・海の駅ツアーの商品化に向けた取組み(食のまちづくり課)【再掲】 ・「福井県観光開発プロジェクト」と連携した旅行商品の造成(現地モニターツアー、旅行会社との意見交換会への参加等)(商工観光課)					





## 1. 観光の目的化

## ③受入体制整備(もてなす)

アクション 1)	観光客流入拡大に向けた観光ガイド、案内機能の強化					
取組み内容	①市内観光施設、標識案内等の多言語表記の整備 ②インバウンド強化に向けた日本政府観光局(JNTO)カテゴリ-2に準拠した観光ガイド配置や観光案内所の整備					
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、文化交流課、都市整備課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 インフォメーションセンター年間利用者数(人)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	100 (13,100)	200 (13,300)	300 (13,600)	300 (13,900)	400 (14,300)	500 (14,800)
実績	▲1,654 (11,346)	▲4,881 (6,465)	▲827 (5,638)			
これまでの 取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化館インフォメーションの市内飲食店や観光スポットなどを紹介するシステムの改修(食のまちづくり課)</li> <li>・濱の湯「健康くつろぎ広場」のリニューアル(食のまちづくり課)</li> <li>・インフォメーションセンターの整備(商工観光課)</li> <li>・案内看板の整備(商工観光課)</li> <li>・観光ボランティアガイドの育成(商工観光課)</li> <li>・道の駅若狭おばまのリニューアル(物販施設・情報館の改修)(商工観光課)</li> <li>・日本遺産構成文化財の看板をわかりやすい英語解説にリニューアル(文化交流課)</li> <li>・外国人ライターによる日本遺産構成文化財英語解説文約130カ所の作成(文化交流課)</li> <li>・若狭歴史博物館・蓬嶋楼・小浜町並み保存資料館の展示等の説明文約30点を観光庁基準の英語文章に翻訳(観光庁事業)(文化交流課)</li> <li>・鯖街道サイクリングマップ英語版の作成(文化交流課)【再掲】</li> <li>・統一した日本遺産のロゴマークを表示する道路案内標識の整備(都市整備課)</li> <li>・小浜まちなか地区の整備(案内サインの整備)(都市整備課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小浜市マイタウンサイン計画に基づく案内看板の整備(商工観光課・文化交流課・都市整備課)</li> <li>・サイクリングガイドの養成(商工観光課)</li> </ul>					



アクション 2)	W i - F i 整備やキャッシュレス化等の観光客の利便性向上					
取組み内容	①市内観光関連施設のW i - F i 整備やキャッシュレス化の導入支援・啓発 ②案内所や観光関係施設へのコインロッカー設置や手荷物預かり・配送サービスの検討および実施 ③飲食店メニューの多言語化や動画ツールの活用など、インバウンド対応の充実強化					
主な関係課	商工観光課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 外国人宿泊者数 (人)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	300 (4,000)	300 (4,300)	300 (4,600)	300 (4,900)	300 (5,200)	300 (5,500)
実績	975 (4,675)	▲3,855 (820)	▲651 (169)			
これまでの取組み	・インフォメーションセンターの整備(商工観光課)【再掲】 ・市内観光関連施設のWi-Fi整備、導入支援(商工観光課) ・市内飲食店等へのキャッシュレス化導入支援・啓発(商工観光課) ・「ふく割」のプラットフォームを活用した「おばま割」、「おばまグルメ割」の発行(商工観光課)					
今後の取組み	・「ふく割」のプラットフォームを活用した市独自クーポンの発行(商工観光課) ・市内飲食店メニューの多言語化にかかる経費の支援を検討(商工観光課) ・小浜公園等エリアWi-Fiの整備を検討(商工観光課)					



アクション 3)	観光事業者や市民の「おもてなし意識」の醸成・向上					
取組み内容	①観光事業者・市民のおもてなし意識の醸成および向上支援 ②観光に特化した英会話教室やマナー教室など市民のコミュニケーションスキルの向上支援 ③各種スポーツ大会や合宿の開催支援					
主な関係課	食のまちづくり課、商工観光課、文化交流課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> おもてなし向上に向けた各種研修会等への参加者数（人）					
	2019年 0 (50)	2020年 50 (100)	2021年 50 (150)	2022年 50 (200)	2023年 50 (250)	2024年 50 (300)
実績	21 (71)	39 (110)	26 (136)			
これまでの取組み	・観光ボランティアガイドの育成(商工観光課) <b>【再掲】</b> ・学生グループの合宿開催の支援(商工観光課)					
今後の取組み	・市民のウェルビーイングの向上(食のまちづくり課) ・NEST INN OBAMAによる体験イベントやワークショップ開催を通じた市民間の交流促進、地域愛の醸成、地域活性化の促進(商工観光課) ・観光事業者のおもてなし意識の醸成、研修等体制の構築(商工観光課) ・文化観光を紹介できるように若い世代に歴史文化の価値を浸透させる(文化交流課)					



## 1. 観光の目的地化

## ④基盤整備(しつらえる)

アクション 1)	インバウンド対応、2次交通の案内強化等観光案内施設の整備および機能の向上					
取組み内容	① レンタサイクルやレンタカーなど2次交通の案内機能を有した観光案内施設の整備 ② 日本遺産のガイダンス機能を有した案内施設の整備 ③ インバウンドに対応した標識案内等の整備 ④ エンゼルラインなど、映える観光スポットの整備					
主な関係課	食のまちづくり課、新幹線・交通まちづくり課、商工観光課、文化交流課、都市整備課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 レンタサイクルの年間のべ貸出台数(台)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	20 (1,400)	50 (1,450)	50 (1,500)	50 (1,550)	50 (1,600)	50 (1,650)
実績	376 (1,756)	▲559 (1,197)	189 (1,386)			
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーションセンターの整備(商工観光課)【再掲】</li> <li>・道の駅若狭おばまに地産地消レストラン「おくどさん」を整備(商工観光課)【再掲】</li> <li>・道の駅若狭おばまのリニューアル(物販施設・情報館の改修)(商工観光課)【再掲】</li> <li>・まちの駅の新たな賑わいの創出(広場の整備、備品の整備・イベント開催)(商工観光課)【再掲】</li> <li>・エンゼルライン山頂駐車場広場の整備(樹木伐採、案内看板・ベンチ・サイクルラックの設置)(商工観光課)</li> <li>・阿納尻三差路にある誘導案内看板の多言語化整備(商工観光課)</li> <li>・護松園(旧古河屋別邸)のカフェや物販販売施設等の整備を支援(文化交流課)【再掲】</li> <li>・鯖街道MUSEUMの整備(都市整備課)</li> <li>・英語表記とともに日本遺産のロゴマークを取り入れた標識案内の整備(都市整備課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食文化館マリンデッキのリニューアル(食のまちづくり課)</li> <li>・JR小浜駅待合室等のリニューアル(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・小浜市マイタウンサイン計画に基づく案内看板の整備(商工観光課・文化交流課・都市整備課)【再掲】</li> </ul>					



アクション 2)	回遊性を高める町並みの整備および空き店舗等の活用					
取組み内容	①小浜縦貫線や三丁町などの街路整備の促進 ②小浜西組や遠敷丹後街道などの町並みの保存・活用 ③市内の公衆トイレ等の公共観光設備の整理、更新 ④空き店舗等を活用した魅力ある店舗・宿泊施設などの整備促進					
主な関係課	商工観光課、文化交流課、都市整備課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> 三丁町エリアにおける古民家宿の年間宿泊者数(人)					
	2019年 50 (700)	2020年 50 (750)	2021年 50 (800)	2022年 50 (850)	2023年 50 (900)	2024年 50 (950)
実績	200 (850)	▲181 (669)	▲11 (658)			
これまでの 取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿納区の民宿再生に向けた高付加価値化改修、共同入浴施設の整備、フロント機能を備えた施設改修への支援(商工観光課)</li> <li>・小浜町家ステイの横展開(7棟)(商工観光課)</li> <li>・宿泊施設・民宿・飲食店の高付加価値化改修(観光庁事業)(商工観光課)</li> <li>・市内民宿リニューアルの支援(商工観光課)</li> <li>・市内公衆トイレの洋式化・案内看板の整備(商工観光課)</li> <li>・商店街など特定エリアへの創業支援(商工観光課)【再掲】</li> <li>・重要伝統的建造物群保存地区「小浜西組」の保存・空き家の調査・活用(商工観光課・文化交流課)</li> <li>・遠敷地区伝統的民家群の保存・活用(文化交流課)</li> <li>・小浜まちなか地区の整備(舗装の高質化、案内サインの整備)(都市整備課)</li> <li>・小浜縦貫線の整備(第一期:小浜白鬚～小浜広峰)(都市整備課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち歩き観光と創業支援を合わせた賑わいの創出(御食国まち歩きマルシェの開催)(商工観光課)</li> <li>・小浜縦貫線の整備(第二期:小浜広峰～大手町)(都市整備課)</li> </ul>					



## 2. 交通利便性の向上 ①交通利便性の向上(来やすい、めぐりやすい)

アクション 1)	<b>高速バスの利用拡大と2次交通の充実による小浜市へのアクセス向上</b>					
取組み内容	①敦賀駅～小浜駅を結ぶ直行バスの運行による本市へのアクセスの向上 ②道の駅若狭おばまへのバスロータリー整備による交通結節点機能の強化と高速バスの利用拡大 ③コミュニティバスなどの市内2次交通の充実強化					
主な関係課	新幹線・交通まちづくり課、商工観光課、農政課、都市整備課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 直行バス利用者数(人)					
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
	—	—	—	—	—	2,600 (2,600)
実績	—	—	—			
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの運行形態見直し、市街地循環バスの導入検討を事業案に位置付けた小浜市地域公共交通計画を作成(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・県、沿線市町、若狭湾観光連盟等と連携した観光列車・レストランバス等の運行(商工観光課)</li> <li>・道の駅若狭おばま駐車場の整備(農政課)</li> <li>・道の駅若狭おばまバスターミナルの整備(都市整備課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR小浜線の復便や小浜線を補完する直行バスの導入による輸送力の向上について、関係者と協議・検討(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・北陸新幹線およびハピラインふくいの乗り継ぎが円滑に行えるよう、小浜線のダイヤ調整について、JRと協議・検討(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・複数の公共交通やそれ以外のサービスを最適に結びつけるMaaS(JR西日本tabiwa byWESTER)の導入や新技術(アプリ)の開発・導入について、関係者と協議・検討(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・県、沿線市町、若狭湾観光連盟等と連携した観光列車・レストランバス等の運行と誘客(新幹線・交通まちづくり課・商工観光課)</li> <li>・レンタカーの支援(商工観光課)</li> </ul>					





アクション 2)	<b>2次交通の機能強化等による市内観光の交通利便性の向上</b>					
取組み内容	①貸切観光タクシーの充実にに向けた支援 ②市内名所や観光エリアを通るバス運行の検討やタクシー、レンタカーの活用に向けた調査、検討 ③JR駅で乗り捨てが可能なレンタカーやレンタサイクルの実現に向けた検討ならびに活用案の検討 ④コミュニティバスの経路探索システムの提供					
主な関係課	新幹線・交通まちづくり課、商工観光課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	<b>【設定】</b> レンタサイクルの年間のべ貸出数(台)					
	2019年 20 (1,400)	2020年 50 (1,450)	2021年 50 (1,500)	2022年 50 (1,550)	2023年 50 (1,600)	2024年 50 (1,650)
実績	376 (1,756)	▲559 (1,197)	189 (1,386)			
これまでの取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内外海地区、8ヶ寺巡りのAIデマンドバス運行実証を実施(観光庁事業)(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・県、沿線市町、JRで小浜線沿線観光活性化に関する連携協定を締結(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・コミュニティバスの大手検索システム(ナビタイム、ジョルダン、駅すばあと、Google等)と連携した経路検索の提供(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・コミュニティバスへの交通系ICカード導入について、関係市町等と協議(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・あいあいバス(内外海方面)でAIデマンドバス実証実験を実施(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・市内循環バスの実証実験を実施(新幹線・交通まちづくり課)</li> <li>・貸切観光タクシーの支援(商工観光課)</li> <li>・市内観光地を巡るレトロバスの運行(商工観光課)</li> <li>・小浜線駅等で乗捨て可能なレンタサイクル導入についての実証実験(商工観光課)</li> <li>・若狭湾サイクリングルート of 整備(商工観光課)</li> <li>・インフォメーションセンターの整備に合わせ、レンタサイクルを拡充(商工観光課)</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の公共交通やそれ以外のサービスを最適に結びつけるMaaS(JR西日本tabiwa byWESTER)の導入や新技術(アプリ)の開発・導入について、関係者と協議・検討(新幹線・交通まちづくり課)【再掲】</li> <li>・市内観光地を巡るレトロバスの新たな活用方法(ルート含む)の検討(商工観光課)</li> <li>・貸切観光タクシーの支援拡充(商工観光課)</li> <li>・若狭湾サイクリングルート of 走行環境整備、スタッフに対する研修やイベント・ワークショップの開催、プロモーション活動等の実施(商工観光課・都市整備課)【再掲】</li> <li>・嶺南市町間で乗り捨て可能なレンタサイクルの実証実験(県事業)との連携(商工観光課)</li> <li>・ターゲットに合わせたレンタサイクルの整備(ヘルメット等含む)(商工観光課)</li> <li>・レンタサイクル利用時間の延長対応等の検討(商工観光課)</li> </ul>					



アクション 3)	<b>J R小浜線の利便性の向上と機能強化、強靱化の検討・実施</b>					
取組み内容	① J R小浜線各駅へのICカード導入に向けた協議、検討 ② J R小浜線車両への自転車乗り入れ（サイクルトレイン）の検討ならびに実施 ③ J R小浜線の利便性向上と強化に向けた検討 ④ J R小浜線を活用した“乗りたくなる”インパクトのあるイベント企画等の検討					
主な関係課	新幹線・交通まちづくり課、商工観光課					
数値目標 増加数 ( )内は累計	【設定】 一日当たりのJ R小浜線乗車人員数（西敦賀駅～青郷駅）（人）					
	2019年 0 (4,000)	2020年 40 (4,040)	2021年 40 (4,080)	2022年 40 (4,120)	2023年 40 (4,160)	2024年 200 (4,360)
実績	▲406 (3,594)	▲489 (3,105)	▲18 (3,087)			
これまでの 取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小浜線への交通系ICカード・サイクルトレイン導入についてJR西日本と協議・要望（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・小浜線ガイドマップの発行（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・クイズラリーパンフレットの作成（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・通勤、通学定期1カ月分全額助成の実施（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・小浜線を巡るスタンプラリーの実施（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・回数券購入プレゼントキャンペーンの実施（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・おばませんフォトコンテストを開催（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・既存助成の拡大や目玉となる助成を期間限定で実施（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・小浜線沿線観光活性化会議でサイクルトレインを検討（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・サイクルトレインの試験運行（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・高校生等若者の意見やアイデアを実現させる事業の実施（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・「乗って楽しい小浜線」をコンセプトとした100周年記念事業の展開（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・県、沿線市町、JRで小浜線沿線観光活性化に関する連携協定を締結（新幹線・交通まちづくり課）【再掲】</li> <li>・県、沿線市町、若狭湾観光連盟等と連携した観光列車の運行（商工観光課）【再掲】</li> <li>・カメラガールズを招聘した、映える写真撮影、個人SNS等での拡散、カメラガールズから提供を受けた写真を活用した観光パンフレットの作成など（商工観光課）</li> </ul>					
今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR小浜駅待合室等のリニューアル（新幹線・交通まちづくり課）【再掲】</li> <li>・複数の公共交通やそれ以外のサービスを最適に結びつけるMaaS（JR西日本tabiwa byWESTER）の導入や新技術（アプリ）の開発・導入について、関係者と協議・検討（新幹線・交通まちづくり課）【再掲】</li> <li>・北陸デスティネーションキャンペーンに合わせて運行する新型観光列車の誘致に向けたイベントの開催やおもてなしの充実（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・サイクルトレインやモニターツアーの更なる磨き上げと継続的な運行（新幹線・交通まちづくり課）</li> <li>・県、沿線市町、若狭湾観光連盟等と連携した観光列車の運行と誘客（新幹線・交通まちづくり課・商工観光課）【再掲】</li> </ul>					



北陸新幹線小浜・京都ルート

みんなの力で**早期開業!!**

— 京は遠ても19分 —

